

1.4.2 追加の環境調査等

前述の「1.4.1 基礎・既存資料調査」において収集した既存情報で不足すると考えられる情報について、以下に示すとおり、追加調査を実施した。

(1) ヒアリング調査

地域を特徴づける生物情報や、ゾーニングに際しての留意事項等について、表 1.5 に示す漁業関係者、有識者、関係機関へのヒアリング調査を実施した。

ヒアリングにおいて、得られた意見の概要は、表 1.5 に示すとおりである。

表 1.5 ヒアリング先一覧

ヒアリング先	件数	ヒアリング内容
魚類 元教員	1 件	・京丹後市における動植物の生息・生育情報 ・既往文献 ・ゾーニングにおける留意点等
鳥類 日本野鳥の会京都支部 元大学教員 博物館研究員	3 件	
両生類 大学准教授	1 件	
哺乳類 (コウモリ類) 大学名誉教授	1 件	
植物 地域住民 大学名誉教授	2 件	
コウノトリ 京丹後市教育委員会 文化財保全活用課 兵庫県立コウノトリの郷公園	2 件	・コウノトリの生息情報、営巣地 ・現地調査計画の妥当性の確認 ・ゾーニングにおける留意点
漁業関係者 漁業協同組合	2 件	・漁業操業の実態 ・魚類の生息状況 ・ゾーニング、再生可能エネルギー施設に対する意見
景観 京丹後市観光公社	1 件	・京丹後市における主要な眺望点、観光地等に関する資料提供

注) 希望により個人名は非公表とした。

表 1.6 (1) ヒアリング結果の概要（生物の分布情報）

項目	結果の概要
魚類	<ul style="list-style-type: none"> ・宇川の天然アユは_____で産卵しており_____まで遡上している。 ・_____では_____、_____が生息している。 ・丹後半島の川のほとんどでアユ、_____が遡上している。 ・_____には_____や_____も生息している。 ・_____には_____、_____が遡上している。
鳥類	<ul style="list-style-type: none"> ・_____では過去に_____が営巣していた。 ・_____は市内のほぼ全域の山地部で営巣が可能と思われる。 ・_____は_____が高密度に生息しており、2002年4月から2004年3月の調査で、6ペアが繁殖している可能性が示唆された。 ・山地部では_____が高密度に生息している。 ・_____は沿岸部周辺で営巣している。 ・_____の繁殖も確認されている。 ・_____は_____、_____、_____、_____の渡りルートとなっている。 ・京丹後市では小鳥類、猛禽類、ガン・カモ類、シギ・チドリ類の渡りがみられる。 ・丹後半島は猛禽類、小鳥類の春の渡りルートとなっている。 ・小鳥類は、春の渡り時期に沿岸部を渡っていると推測される。 ・猛禽類は、_____、_____、_____が春の渡り時期に_____を渡つていると推測される。 ・_____、_____も内陸部を移動する事例が確認されている。 ・京丹後市は_____の分散エリアとなっている可能性がある。 ・_____は_____の繁殖地となっている。 ・_____では_____が繁殖している可能性がある。 ・_____、_____はガン・カモ類やハクチョウ類の越冬利用が多くみられる。 ・丹後半島の南側はガン・カモ類の越冬地として利用されている。 ・_____は、京都府内でも唯一下草にササが残るブナ林となっており、_____、_____、_____等が生息・繁殖している貴重な環境である。 ・サギ類のコロニーが久美浜町と大宮町に各1箇所ずつ存在する。 ・_____猛禽類、コウノトリ等の多くの貴重な鳥類が確認されている。 ・丹後半島は日本海に突き出した岬状の地形となっており、海岸部まで山地がせり出した地形が多くみられる日本列島の中でも特異な地形を有した地域であり、この地形特性により、多くの鳥類が丹後半島を利用していると考えられるが、詳細なデータが整理されていないのが現状である。
コウノトリ	<ul style="list-style-type: none"> ・_____にコウノトリは時々飛来するが、繁殖はしていない。 ・コウノトリは_____には少なく、_____に多い印象がある。 ・コウノトリの人工巣塔は市内に3基設置されており、このうち2基には営巣が確認されているほか、_____で1箇在営巣が確認されている。 ・京丹後市では、現在コウノトリの繁殖地が3箇所あるが、今後増えていくことが予想される。

表 1.6 (2) ヒアリング結果の概要（生物の分布情報）

項目	結果の概要
両生類	<ul style="list-style-type: none"> では、[REDACTED]が生息している。 京丹後市では、[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED]には留意すべきである。 [REDACTED]は[REDACTED]で記録があり、京丹後市にも生息している可能性がある。 [REDACTED]は生物にとって重要なエリアである。
哺乳類 (コウモリ類)	<ul style="list-style-type: none"> 京丹後市は調査データが乏しく、コウモリ類の分布情報はあまり分かっていない。 [REDACTED]には[REDACTED]が分布しており、夕方にそこから[REDACTED]の方へ採餌等に飛翔する。それぞれ島から20km程度の距離があるが、毎晩往復している。 [REDACTED]は京丹後市に生息していてもおかしくない。 [REDACTED]は洞窟に、[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED]は大径木に生息している可能性がある。 近年京都府内では[REDACTED]が確認されており、かなり分布が広いかも知れない。 [REDACTED]は[REDACTED]のコロニーから京丹後市周辺に移動している可能性がある。
植物	<ul style="list-style-type: none"> 市内では[REDACTED]にかけて重要種が多くみられる。また、[REDACTED]の海浜植物が特徴的である。 [REDACTED]は、[REDACTED]や[REDACTED]に多く見られる。 [REDACTED]は、[REDACTED]に多く見られる。 [REDACTED]が[REDACTED]に生育している。 [REDACTED]は[REDACTED]、[REDACTED]に多く見られる。 [REDACTED]、[REDACTED]は[REDACTED]に多く見られる。 ブナ林、神社を中心に分布するシイ林、タブ林等の常緑広葉樹林、[REDACTED]や[REDACTED]の海浜植生[REDACTED]から[REDACTED]の下層植生としてササが残った地域[REDACTED]の水田地帯は保全上重要な場所である。

(2) コウノトリへの影響調査

1) 繁殖期調査

市内に生息するコウノトリの繁殖ペアの主要な行動範囲、採餌場を把握するため、育雛期である6月に、令和5年の営巣地3箇所（島津地区、永留地区、市場地区）周辺において、現地調査を実施した。

現地調査において確認されたコウノトリの飛来情報を図1.8に、主要な行動範囲、採餌場の範囲を図1.9に示す。現地調査の結果、主要な行動範囲は営巣地から約1.2kmの範囲、主要な採餌場は営巣地から約1.2kmの範囲の中の水田であると判断された。これらのデータについては、GISレイヤーとして整理し、ゾーニングマップへの反映を行った（表1.2参照）。

なお、調査結果の詳細については、巻末資料に整理した。



コウノトリ島津ペア



コウノトリ永留ペア



コウノトリ市場ペア



水田で採餌するコウノトリ



飛翔するコウノトリ



コウノトリの採餌環境

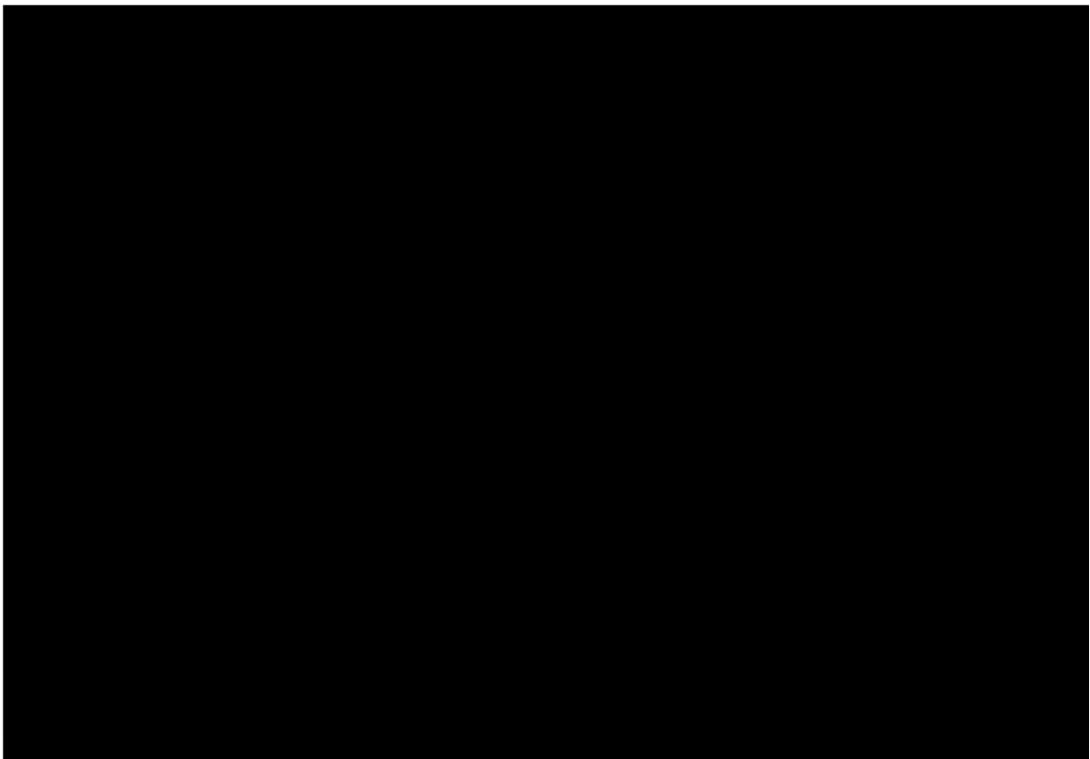


図 1.8 現地調査におけるコウノトリ確認位置

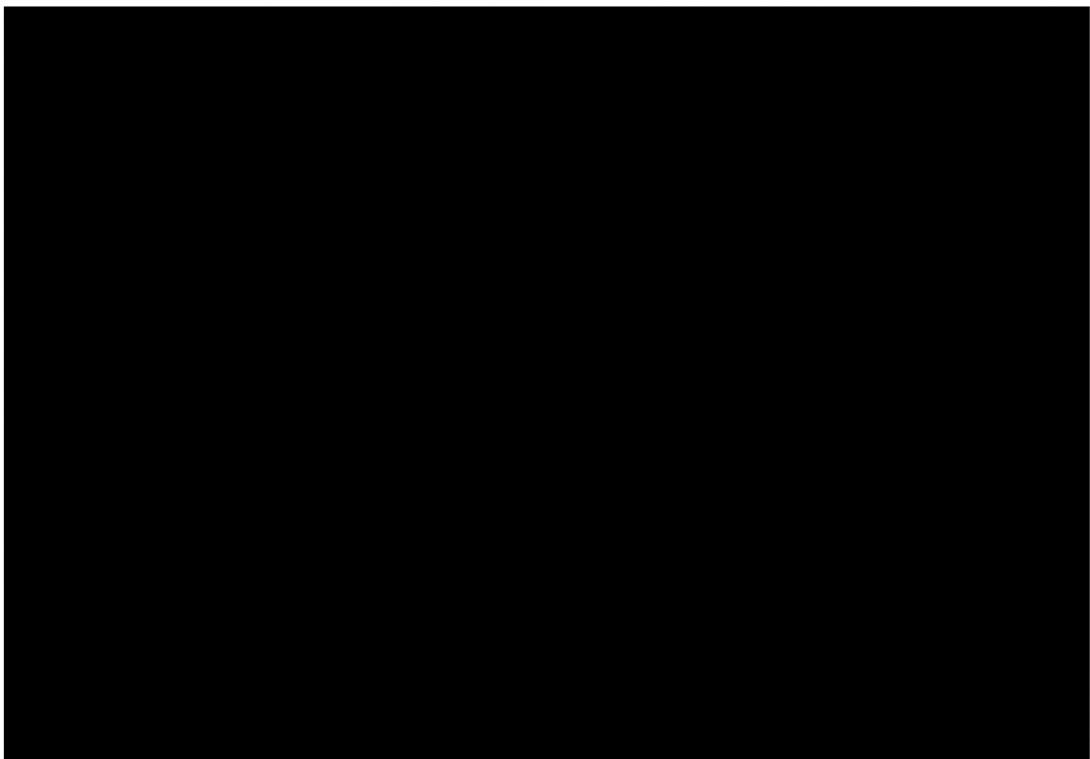


図 1.9 コウノトリ繁殖ペアの主要な行動範囲及び採餌場

図 1.10 コウノトリ調査の野帳の例

2) 非繁殖期調査

コウノトリの主な利用場所（餌場、移動経路等）を把握し、自然環境保全の観点からの妥当性を検証することを目的とし、11月～12月に非繁殖期の影響調査を実施した。調査結果については、現在とりまとめ中である。

(3) アベサンショウウオへの影響調査

アベサンショウウオの生息の可能性を把握し、自然環境保全の観点からの妥当性を検証することを目的とし、11月～12月に影響調査を実施した。調査結果については、現在とりまとめ中である。

(4) 景観への影響調査

市有地において太陽光発電施設を設置した場合の景観への影響検討を行う予定である。